

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立静岡聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	29名

1. 使用状況

寄贈物品名	ロジャータッチスクリーンマイク
使用学年及び人数	幼稚部年少6名、年中3名、小学部1年1名、2年2名
使用頻度	毎日(年間200回)
使用状況	<p>ロジャータッチスクリーンマイクは、教師が首に掛けたり、テーブルの上に置いたりして音声を拾い、児童生徒が身に付けている受信機に送信するマイクロホンなので、毎日の授業で話者の音声や動画教材等の聞き取りを支援するために使用しています。</p> <p>また、居住地や地域の園や学校との交流学习の際にも使用しており、大人数での学習でも、教師や友達の声や周囲の環境音を聞き取りやすくしてくれています。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>ロジャータッチスクリーンマイクは、自動認識機能で自分の周囲の話者の声だけを選択して補聴器等に直接ストリーミングするので、受信機を活用している児童の聞き取りが向上し、コミュニケーションがより円滑になり、どの子も授業に十分に参加することができます。</p> <p>ロジャータッチスクリーンマイクの台数が増えたことにより、校外で使用する場合においても、校内外で滞りなく使用する環境を整えることができました。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>授業中の発表の際には児童生徒がロジャータッチスクリーンマイクを次の発表者に手渡したり、複数の教員が交互に使ったりする場合があります。新型コロナウイルス感染症対策として、消毒を徹底するなどの感染症対策の徹底が必要となります。</p> <p>現在は教員がロジャータッチスクリーンマイクと受信機の接続等の操作を行っていることが多いですが、自分で操作をすることができる児童生徒が増えるよう、自立活動等の時間を活用して指導していきます。</p>
その他希望や所感など	<p>交流教育で積極的にロジャータッチスクリーンマイクを活用することにより、地域の学校の児童生徒に対しても難聴に対する理解が深まるきっかけとなりました。</p> <p>聴覚を支援する機器や技術は日々改良を重ね急速に発展しており、学校は多様な教育に対応した環境整備を進める必要があります。常に新しい技術の利用が学校で体験できることで、子どもたちの未来の可能性が広がります。</p>

2. 活用の様子

幼稚部の朝の会の様子を。ロジャータッチスクリーンマイクを首から下げて話すことにより、教師の声が幼児の補聴器や人工内耳に直接届き、教師の声をより明瞭に聞き取ることができるようになります。

